

10月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：<http://jppf.jp/>

□ NHK でパラ・パワーが紹介される

中小企業の方々が、オリンピックやパラリンピックで、何か協力できないか、と、各競技団体のニーズを調査し、そのニーズとマッチングする会社は無いかと、探す企画がある。その中小企業と競技団体の取り組みの様子をNHK国際が面白い、と、番組で取り上げられた。パラ・パワーでは、マクドナルド山本恵理さんが、NHKのスタジオに呼ばれて、キャスターと中小企業に期待すること、パラ・パワーのことなどのインタビューを受けた。この放送は海外向けで、すべて英語インタビュー。



「スポーツイノベーション」という番組では、7月に来日した車いすのラーマン選手が、健常者の同じクラスの選手より重い重量をあげている、という事実に注目し、「なぜ」を脳からの命令が違うのか、と、言う視点で考察した。東大の石井直方先生や、中澤先生を巻き込んでの考察。確かに、健常者と障がい者の脳の活動分野は同じ動作をしても異なるようだった。

今後の研究次第では、健常者にも応用できるかと。

合宿報告



2000m級の高地、メキシコで開催される世界選手権を前に、高山病の可能性は？高地のパラ・パワーに与える影響は？などの講座が連盟の伊藤ドクター(写真上)によって開催された。スタミナ系ではないパラ・パワーの競技力への影響はほとんど無いだろう、と、一安心。水泳などは、かなりの影響を受ける、ということで、パラ・パワーと同時に開催されるパラ水泳の世界選手権の日本選手団は、一足先に渡航。一週間以上現地で合宿の後、競技会に参加とのこと。また、現地での栄養摂取も重要と、選手一人一人の栄養調査をし、個々に小川管理栄養士(写真右上)よりアドバイス。

合宿に熱心に参加し、パラ・パワーの練習に励んでいる中嶋選手(写真右)、パラ・パワーの記録向上に伴い、本来の中嶋選手の競技であるカヌーの力がぐんぐん付いて、ついに、世界第二位に。東京パラリンピックでは、パラカヌー？パラ・パワー？両方出る！、凄いなあー。



20年「東京」へ有望株は？
選手発掘事業、京で測定会

2020年東京五輪「プロジェクト」のパラリンピックを見据えて有望選手を発掘する国の「ジャパン・ライジング・スター」が、近畿を中心に24

「ジャパン・ライジング・スター」プロジェクトの測定会でパラ・パワーリフティングを体験する参加者(京都市障害者スポーツセンター)

人が参加し、対象は競技の強化担当者が能力や適性を見極めた。同プロジェクトは日本体協が事業主体となり、国の補助金を受けて五輪やパラを狙える選手を発掘、育成する。パラ競技はボッチャ、水泳、パワーリフティング、車いすフェンシング、自転車に絞り、7～9月に全国5会場で測定会を催す。

3会場目となったこの日は、身体や知的障害のある10～30歳代の男女が参加。瞬発力や持久力を測定した後、希望競技を本検し

スター誕生！

スポーツ庁の肝いりで始まった全国新人発掘事業。パラ・パワー、有望選手を見つけたぞ！

新しい選手にも順調に伸びていてもらいたい。





□ パラリンピック種目の普及啓発活動

パラリンピック種目の中には、パラ・パワーリフティングのように、まだまだ世に知られていない競技もある。東京パラリンピックを前に、できるだけ多くの方々にパラリンピックを見に来ていただきたいと、体験会や、トークショーなどの様々なイベントが開催されている。

写真上は、8月25日で、ちょうどパラリンピック開催3年前、ということで、「3年前イベント」パラ・パワーからはリオ49kg級5位の三浦浩選手が参加。

写真下は、チャレスポ TOKYO、と言うイベントで、東京都が開催。小池知事も登壇して、パラスポーツの紹介や、選手としての抱負を語る。

パラ・パワーには、100人を超える方々がパラ・パワーを体験。
(写真左下、写真提供は東京都障害者スポーツ協会)

宇城選手(写真右下)の真剣トレーニングには、人だかり。
この後、165kgまで挙げた宇城選手に大拍手。

